

令和6年7月24日（水）
内子分庁3階大会議室

内子町部活動地域移行推進連絡協議会（第2回）会議録

内子町教育委員会

挨拶 委員長

第1回内子町部活動地域移行推進連絡協議会に引き続き、第2回を開催できることをありがたく思う。部活動地域移行について、中身を協議いただくことになる。地域クラブ活動としては、新しい仕組みを取り入れる必要がある。本日は、えひめ広域センターから3名の先生が来てくださり、具体的な説明がある。参考になることもあると思う。質問事項などたくさん出していただきたい。

◆協議1 内子町内中学校におけるクラブ活動の方針（第2期）について

- 事務局 資料を基に説明する。（愛媛県学校部活動及び地域クラブ活動の在り方等に関する方針）
- 委員長 要するに、内子版の仕組みを作っていくということ。内子町のビジョン、原案を提案する。次回、事務局が原案を提案するということによいか。
- 委員 よい。

◆協議2 運動・文化部活動の地域移行に関する実践研究事例集

- 事務局 資料を基に説明する。（事例集）
- 委員 資料は、総合型スポーツクラブを設立する例であったが、吹奏楽部など文化部はどうなるのか。
- 事務局 文化系も含めた総合型スポーツ・文化クラブということで考えている。
- 委員 運営団体として、NPOなど核となる人が必要だと思うが、それについてはどのように探しているのか。
- 委員長 人材が一番大切で、役場以外からとなるとどこから探してくるのが課題となる。ただ、そこまで調査もまだできていないし、方向性もない。皆様のご意見をお聞きしたい。次回は、その辺も含めてご意見を伺いたい。

◆協議3 総合型クラブの事例から学ぶ

- アドバイザー プレゼン資料により説明する。
- 委員 今回、内子町は総合型スポーツクラブをとということ。今治では一から創ったのか、既存の方と協力して創ったのか、どちらなのか。
- アドバイザー 両方あった。既存の方に声をかけて協力してもらったのと、こういった活動があったらということで立ち上げた。
- 委員 説明の中で、企業の名前がでてきたが、どうやって声をかけたのか、協力して

もらったのか。

アドバイザー 企業としても、地域と協力したい・接点を作りたいと思っていたところで合致していたため、声をかけて協力いただいた。企業からスポンサーとしてお金はもらっていない。お互いの思いが一致したときに協力いただいている。

委 員 地域連携取り組みの部分を教えてほしい。今治の中学生も色々なものがクラブ化されていて、クラブを選択している人もいると思うが、クラブとの関連などもあるのか。

アドバイザー サッカーや野球は地域に別にあるため、本クラブではやっていない。ただ、フットサルなど少し違うものや、チア、新体操などはある。子どもの取り合いにならないようすみわけはしている。今治は15校あり、島もある。全てはまかなえない。サポートする団体や事業などで関わっている。

委 員 規模感としては、どれくらいになるのか。

アドバイザー コロナ前で、会員1000人と少し。コロナ後は、500～600人で行っている。指定管理者制度を使ったりして、大きな金額がある。部活動地域移行をするうえで、ある程度の規模はないと難しいのではないかなと思う。

委 員 今治しまなみスポーツクラブは、あくまで一企業ということか

アドバイザー NPOの一事業体である。行政との関わりもあり、指定管理者ではあるが。

委 員 事務局をしている人はどれくらいいるのか。

アドバイザー 事務局は、4～5人。施設の管理に関わる人は、もう少しいる。

委 員 どれくらいの施設があるのか。

アドバイザー 今治は、12市町村が合併してできたので、その数だけある。30くらいはある。

委 員 現状として、クラブを利用している子供たちは、島は離れているので少ないか。

アドバイザー どうしても少ない。ゼロではないが多くはない。

◆協議4 その他

委 員 内子町は、スポーツ施設より文化施設のほうが多い。指定管理に出す予定はあるのか。できるだけ廉価となると、どこかからか収入が必要。

委員長 主だった町が管理しているものは、観光協会に管理を任せているものがある。今後のスタイルとして、今治のような指定管理がいいのか、人件費をはらうのがいいのか考えていく必要がある。

アドバイザー 財源については、規模感から事業規模を考える必要がある。収益をどうするのか、例えばお祭りでかき氷などを売って収益とするなど、目的が分かっているれば協力してくれる人もいる。こういった小さいことも大切。有償の人、ボランティア、会計年度、正職など様々な人の力を結集・融合の形が必要となっている。

事務局 えひめ広域センター指導員の方から、全国的なことについて情報はないか。

指導員 今後、えひめ広域センターとして情報提供をさせてもらう。運営主体をどうす

るかが大切である。全国的に、指導者、お金、移動手段など課題が出てくるが、運営主体をどうするかが持続的なものにするうえで大切。財源については、自主財源や、市町と協力してということもある。全国で勉強しているところなので、協力できるようにしていきたいと思う。

アドバイザー どういうふうに立ち上げるのか市町によって違う。部活動地域移行は、進んでいるさなかで答えがない。

事務局 次回に向けて、情報提供してほしいことがあればお願いします。

委員 例えば、内子町にある団体を当てはめてみるなどして、現実的な話をしてみてもどうか。実現可能かどうか。

委員長 次回、ある一定のスタイルをきめてというのは、難しいのではないかな。次回は、フリートークでいろいろな意見を聞く方向でどうかと考える。今日勉強して、内子町に当てはめるということ、財政的な大切さも感じたと思う。

委員 中学校の部活、今内子町にある教室、だれを対象にどういったものがあるのか。まとめたものがあると、話がつながってくるかもしれない。

委員長 文化的なものも含めてということで情報提供あるとよい。

委員 総合スポーツ、フィットネスクラブを運営していて、会費をいただくこともある。お金をいただく代わりにこういったものができますとか、ミッションを伝えて理解してもらわないと入ってこないと思う。どのように町民にアピールしようとしているのか。考えを聞かせてもらえるとよい。

事務局 事務局で相談の上、案を探りたい。

委員 B-1(総合型地域スポーツクラブ運営型)というのが引っかかっている。今まで進めてきた町の部活動地域移行の話が、うまく引き継がれないのではないかと懸念している。

委員長 部活動ではなく、学校外活動になるのという転換点にあたる。

委員 受益者負担につながっていくので、その辺をどう考えるのか整理したい。教育的観点の大切さもある。総合的に考えたい。

委員長 結論から言うと、内子町のスケールでは、何らか町の支援は必要と個人的に考える。受益者負担だけでは難しい。

委員 町の考えをもっと聞かせてもらえるとよいのではないかな？

委員 県の方針の中の部活がもっていた意義との整合性がほしい。学校で行われていた意義はやはり大切にしなければならない。

委員長 どういう形での地域移行の意義が保たれるのか。次回、質問のあったことに対して事務局から提案があり、それに対して意見をいただきたい。

挨拶 副委員長

内子町にある規模感とあったものが必要。全国的にも事例は少なく、パイオニアの立場にあると思う。手探り状態が続くが、報われる時が来ると思う。ご協力をお願いしたい。